

2023年度 乳児ホーム 事業報告

1 総括

2023年度は子供ホームと乳児ホームの併任園長として活動することとなった。就任決定した際は私自身、驚きや不安があったのも事実で、どこか現実感のない就任となったのは否めない。管理者としての責任は半分ということにはならないので、やるしかないという思いで素直に現状を受け入れた。しかし、フォスタリング機関のアセスメントや会議にも参加している状態であり1日の時間配分を3つの事業所で分割しなくてはならなかった。とりあえず私自身が3つの事業所を移動することでバランスを取るようにした。実際、会議や処遇面、システムの問題で時間配分を一番必要としたのは子供ホームであり、フォスタリングや乳児ホームは役割的に判断が自立しているので最終チェックや最終判断が必要な場合だけ園長が決定、判断することとした。Line アプリの活用で情報の伝達はかなり有用である反面、1日のやりとりは多く、平均しても1日に50以上のやり取りを3事業所と行っている。しかしながら職員からみても今まで100%乳児ホームにいた園長がいないというのは緊急時が多い乳児ホームでは不安が大きかったようで、実際に不安を口にする職員もいた。このような職員のストレスは増えたが、なんとか1年間運営出来て良かったと思う。

養護施設は子どもの「思い」との闘いである。児童の権利条約に書いてあるとおり「子どもに最も良いものを」は最も良いと思うものが子どもと大人では違うものであり、子どもが良いと思うものの殆どが現実的でない場合が多い。だから大人が用意する最も良いものを選択させなければならない。ここに反発が生まれるわけだが、乳児院の特徴は病気との闘いである。健康に成長する権利は子どもが用意するものではなく、大人が用意するものである。さらに乳幼児は最も病気に弱い故にこの点が重視される。

今年度の感染症対策は新型コロナが感染症法の5類に移行したことによる職員の気の緩みがあったのは間違いないと思える。当然のようにコロナの感染は職員から乳児ホーム内で広がり、感染終了まで2週間を要した。ノロウィルスの感染もかなり酷く職員感染も発生し、終息まで2週間以上かかった。一時保護児童からの感染であったが状態把握を軽んじ、兆候があったのにもかかわらず、情報共有を行わず隔離解除し感染が広まった。新型コロナが2類であるときの感染症対策が現在と違うわけもなく、同じでなければならない。感染症に対する準備は乳幼児を扱う本園では同じであるべきなのだが、世間と同様に緩んだことにより、こういう事態を招いてしまった。職員には引き締めを促したが、なかなか行動が伴わない様子も感じられる。

今年度は入所児童（一時保護）の入退所が激しく、「このとり」の入所も多かった。この為、里親のマッチングは同時並行して行われることが多く、里親支援専門相談員の疲弊がかなり見られた。入退所が多かった理由の1つに熊本乳児院の入所受入拒否があり、殆どの熊本市の入所児を本園が受け入れられなかった。熊本乳児院も一連の騒動により職員確保が出来ない状況が続いており、受入人数を絞るしかなかったのだが、国で言われる「乳児院不要論」とは矛盾した結果となり、熊本での乳児院入所ニーズの高さを証明した形となった。

2 主な取組の実施状況と評価

(1)職員処遇向上

- ①人員を確保し、職員の負担軽減を目指したが、職員人数は最低限であり、緊急時（入院時等）の対応は難しいままである。夜勤頻度も多く職員負担が高いのは継続している。
- ②スーパービジョン体制は前年と変わらず安定はしている。チームスーパービジョンは機能しており、人事考課委員会では闊達な意見が出た。

目 標	実 績	評 価
①人員確保による職員の負担軽減 ②安定的なスーパービジョン体制	①職員人数は最低限であり、緊急時（入院時等）の対応は難しいままである。夜勤頻度も多く職員負担が高いのは継続している ②前年と変わらず安定はしている。チームスーパービジョンは機能しているまた人事考課委員会では闊達な意見が出た	4

- 1 達成できなかった 2 あまり達成できなかった 3 ある程度達成できた
4 概ね達成できた 5 達成できた (以下同)

(2)児童の処遇改善

- ①2023 年度は一時保護委託が多く、ケースの確実な方針設定を目標としたが、児童相談所の判断で環境等整わない状態での家族再構築を行うことが多く、地域的には危険な状態が続いている。
- ②里親、特別養子縁組の成立について、慈恵病院からの入所が驚くほど多く、里親委託の為のマッチング（慣らし）に追われたが委託は問題なかった。

目 標	実 績	評 価
①ケースの確実な方針設定を行う ②里親、特別養子縁組の成立	①一時保護委託が多かったが児童相談所の判断で環境等整わない状態での家族再構築を行うことが多かった ②慈恵病院からの入所が多く、里親委託の為のマッチング（慣らし）に追われたが委託は問題なかった	4

(3)多機能化

- ①フォスタリング機関から里親支援センターの移行については、委託児の自立支援、ショートステイ里親の対応、委託時の家庭再構築など包括的機能は増え、それに伴う職員増員も行うことが出来た。
- ②乳幼児養育センターとしての乳児院の役割の再認識については、ショートステイ、一時保護委託、病児保育、プレパパママ教室事業を継続して行われており、コロナ5類移行後は利用人数もかなり伸びてきている。

目 標	実績	評価
①フォスタリング機関から里親支援センターの移行 ②乳幼児養育センターとしての乳児院	①委託児の自立支援、ショートステイ里親の対応、委託時の家庭再構築など包括的機能は増え、それに伴う職員増員も行った ②ショートステイ、一時保護委託、病児保育、プレパパママ教室事業を継続して行っており、利用人数もコロナ5類移行後はかなり伸びてきている	5

(4)感染症対策(医療面)

- ①職員に対する感染症対策の徹底を行ってきたが、「緩み」があったのか職員からのコロナ感染が始まり、入所児も感染となった。ノロウイルス感染も冬場に起こり、殆どの入所児が感染、対応に追われた。
- ②新たな感染症対策は行わなかったが、感染症対策は基本を忠実に守り、地域の感染症状況の把握を行ってきた。感染兆候に敏感に反応し、隔離体制の確立や情報共有を行う必要がある。

目 標	実績	評価
①職員に対する感染症対策の徹底を行う ②感染症法の2類から5類に変更後も継続した感染症対策を行う	①職員から入所児へのコロナ感染があった。またノロウイルス感染も冬場に起こり、殆どの入所児が感染、対応に追われた ②継続した感染症対策を行った。	2

3 サービスの利用状況

入所人数は平均 11 人で少なめだが、このとりの入所が多かった。ショートステイも病児保育もコロナ禍前の状態に戻ってきている。

(1)本体在籍人数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初 日	10	11	12	12	11	9	13	12	12	11	10	14	137
前年度	13	12	11	13	13	13	13	14	14	14	12	13	155
前年度比	(▲3)	(▲1)	(1)	(▲1)	(▲2)	(▲4)	(0)	(▲2)	(▲2)	(▲3)	(▲2)	(1)	(▲18)
退 所	0	2	3	3	4	0	4	1	3	2	1	2	25
入 所	1	3	3	2	2	4	3	1	1	1	5	2	28

(2)子育て短期利用事業

①ショートステイ利用人数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度
利用者	3	0	0	1	0	1	1	4	2	0	1	0	13
前年度	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	5
前年度比	(2)	(▲1)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(4)	(1)	(0)	(1)	(▲1)	(8)
述べ人数	8	0	0	6	0	4	1	13	7	0	1	0	40
前年度	3	2	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2	12
前年度比	(5)	(▲2)	(0)	(3)	(0)	(4)	(1)	(13)	(5)	(0)	(1)	(▲2)	(38)

②レスパイト 利用人数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度
述べ人数	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
前年度比	(0)	(0)	(0)	(0)	(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(▲1)	(0)	(0)	(2)

(3)病児保育

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度
述べ人数	4	26	36	44	41	35	47	52	56	29	48	47	465
前年度	0	0	3	1	0	2	2	20	28	17	37	19	129
前年度比	(4)	(26)	(33)	(43)	(41)	(33)	(45)	(32)	(28)	(12)	(11)	(28)	(336)

(4)もうすぐパパママ教室

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度
述べ人数	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	4	0	6
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前年度比	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)	(0)	(4)	(0)	(6)

4 苦情対応の状況

(1)苦情解決委員会 2024年2月27日開催

(2)2023年度 苦情受付件数 なし

5 主な行事の実施状況

4月	辞令交付式
5月	こどもの日
6月	
7月	七夕
8月	
9月	園内行事
10月	ハロウィン
11月	園内活動
12月	クリスマス
1月	正月
2月	節分
3月	動物園

6 研修の実施状況

4月	法人新人研修
5月	CW部会新任研修会
6月	日本キリスト教児童福祉連盟研修
7月	全国乳児院研修
8月	キャリアパス中堅研修
9月	子育てワークショップ研修
10月	全乳協議会 リスクマネジメント研修
11月	アンガーマネジメント研修
12月	ファシリテーション研修
1月	九乳相談援助部会研修
2月	九州乳児院職員研究大会
3月	児童福祉総合研修 F L E C研修

7 施設整備等の状況

場 所	内 容	価 格
エーネホーム	玄関床補修	¥ 220,000
	手洗い器取り付け	¥ 231,000
乳児ホーム本体	ガス給湯器	¥ 231,000
	監視カメラ一式	¥ 420,002
	公用車パンク修理	¥ 107,140
	乳幼児ベッド 10 台	¥ 990,000

8 その他

● インシデント・アクシデント

① レベル-1 (事故)

(件)

転倒	指つめ	嘔みつき	誤薬	転落	授乳種類選択ミス	与薬忘れ
1	3	16	1	1	2	1

② レベル-2 (病院対応)

転倒
3

※嘔みつき 16 件は前年より 3 件増加。哺乳瓶選択ミスは与薬使用の乳首を使うなど普通には考えられないミスである。レベル 2 の転倒は病院受診が必要な怪我が発生し、職員の集中力の低下が全体的に見られた。